

A D F & G (アラスカ州魚類狩猟局)

狩猟者が鳥インフルエンザに関して知っておくべきこと

2005.9.30

2005年8月時点で、高病原性鳥インフルエンザ H5N1 型は北米で発見されていない。野鳥や家禽の陽性反応および人間への感染は報告されていない。

要約

鳥インフルエンザは野鳥個体群に広く存在するが、感染は少数であり通常感染の兆候ははっきりとは現れない。ウイルスは、主に鼻腔や口腔の排出物や糞便によって拡散していく。鳥のウイルスは人間にはほとんど感染しないが、インフルエンザウイルスは、時と共に適応し、変異することができる。1997年、香港では、様々な H5N1 ウイルスが鳥から直接人間へと感染した。

H5N1 型は鳥に伝染しやすく、特に家禽（鶏、アヒル）に感染すると死を招く。2003年から、高病原性の鳥インフルエンザ(HPAI)で、毒性の強い H5N1 は、東南アジアの家禽の間に発生し広まった。大量の家禽がウイルス撲滅のために大量に処分されたにもかかわらず、2005年には H5N1 型はアジアに広まり、7月下旬にはシベリアやカザフスタンにも広まった。

H5N1 型の人への感染の大部分は、感染した家禽、あるいは感染面に接触したことによるものである。このウイルスは、人には簡単に移らず、野鳥から人への感染例はまだ報告されていない。

2003年12月以来、東南アジア4ヵ国での H5N1 型の人への感染数は112人、死者の数は57人と報告された。

アラスカにおける鳥の H5N1 型ウイルスの調査

H5N1 型ウイルスは北アジアで広まったため、米国内務省魚類野生生物局(USFWS)、米国地質調査局(USGS)、アラスカ地区魚類狩猟局(ADF&G)、及び保健関係機関は、アラスカにおける野鳥の H5N1 型ウイルス感染調査に関し、パートナーシップを発足させた。これは、現在進行中のアラスカ大学での鳥インフルエンザ調査と共同して行われている。2005年の夏、何千もの水鳥、シギ・チドリ類がアラスカで鳥インフルエンザの検査を受け、2006年はより大規模な調査が計画されている。野外のサンプル採取は、アメリカとカナダ全域の調査事業と連携して行われる。

北米における H5N1 型ウイルスの見通し

アジアにおいて、H5N1 型により、渡り鳥を含む野鳥が感染し死亡したという報告が増えている。こうした報告や H5N1 型ウイルスのアジアの別の地域への拡大を受け、渡り鳥により北米に H5N1 ウイルスが持ち込まれるかもしれないという憶測が広がっている。今のところ渡り鳥が H5N1 型の伝播の主要な原因との証拠はほとんどないが、渡り鳥がより広い意味でどんな役割を果たしているのかは明らかにされていない。

ある渡り鳥、特に水鳥や、シギ・チドリ類はアラスカとアジア間を行き来する。渡り鳥のいくつかは、北米で繁殖し、夏の間ベーリング海峡を渡り換羽し、アジアの沿岸で越冬する。またある種は、ロシアで繁殖し北米で越冬するために渡りをする。しかしながら、これら渡り鳥が、アジアで H5N1 型ウイルスに感染するのか、H5N1 型ウイルスを野鳥がどのくらいの期間保持し、あるいは渡り鳥がウイルスを長距離運べるのかどうか等については、まだ判明していない。現在のところ、H5N1 型に感染した鳥がアラスカに来る可能性は不明である。

鳥インフルエンザの他の動物への感染

インフルエンザウイルスは、多種の鳥に広く存在するが、他の動物種への感染や影響に関する情報は不足している。最近の文献によると、H5N1 型ウイルスは豚や猫（野生および飼育両方）にも感染するとされている。

狩猟された野鳥の安全な処理と調理

H5N1 型ウイルスの野鳥から人への感染例はまだ報告されていない。しかしながら、健康な野鳥でも、野鳥と人の間を行き来できる微生物や寄生虫に感染していることがある。従って、狩猟の際には、簡易な防護服を身につけ、道具や作業場を清潔に保つことが賢明な安全策である。深刻な事態となりうるよくある感染を避けるために動物や肉を清潔に衛生的に扱うことが、重要である。

H5N1 型ウイルスは鳥からの液体の排出、あるいは糞便によって拡散されるため、鳥の羽を引き抜くあるいは洗浄する際にこれらに直接触れないようにするのが好ましい。大部分のウイルスはその保持者から離れた後に、長期間生き続けることはなく、熱や乾燥、殺菌剤により死滅する。

狩猟者が衛生面で注意すべき事項の例

1. 明らかに病気あるいは死亡している狩猟動物に手で直に触れたり、解体しないこと。
2. 狩猟鳥処理中は、飲食及び喫煙は慎むこと。
3. 狩猟鳥処理中は、ゴム手袋および洗濯できる衣類を着用すること。
4. 狩猟鳥に触れた直後にすぐに水と石けん、あるいはアルコールナプキンで手を洗うこと。
5. 道具や作業台を水と石けんで洗い流し、10%の塩素系漂白溶液で殺菌すること。
6. 狩猟した野鳥の肉は十分に加熱調理すること（家禽の場合、内部温度 155-165 °F 以上まで）。

狩猟中に H5N1 型あるいは他の疾病から身を守る方法

感染した野鳥から、H5N1 型や他の疾病にかかる可能性があるため、狩猟者は以下のことに注意しなければならない。

1. 明らかに病気の鳥、あるいは死亡している鳥に直接触れないこと。
2. 狩猟したや鳥を冷却し、清潔と乾燥を保つこと。
3. 狩猟鳥処理中は、飲食及び喫煙しないこと。
4. 狩猟鳥処理中は、ゴム手袋を着用すること。
5. 鳥の処理をした後は、石けんと水、あるいはアルコールナプキンで手を洗うこと。
6. 処理後すぐに、道具と作業台を清潔にすること。熱い石けん液を用いた後、10%の塩素系漂白溶液で殺菌すること。
7. 狩猟鳥の肉は、疾病生物および寄生虫を殺傷するため十分（155-165 °F）加熱調理すること。

よくある質問

質問：なぜ、鳥インフルエンザにこれほど懸念が集まるのですか？

世界中の保健・医療機関担当者が、鳥インフルエンザに対して懸念を持っています。なぜなら、インフルエンザウイルスは常に型を変化させていて、ウイルスが遺伝的に変化して毎年新型のインフルエンザが出てくるからです。いくつかの型のインフルエンザは、鳥から哺乳動物へ、さらには人へと感染可能です。過去には、世界的に流行したインフルエンザが数種あり、もし新型の鳥インフルエンザが人から人へ感染するようになれば、世界的な健康（人類滅亡）の危機という最悪のシ

ナリオが起こり得ます。

質問：鳥インフルエンザは、野鳥から人に感染しますか？

野鳥から人への鳥インフルエンザの感染例は報告されていませんが、野鳥から人への直接の感染はあり得ないとはいえません。通常鳥インフルエンザウイルスは、さまざまな野鳥間で行き来しますが、家禽の鳥インフルエンザウイルスの中には、高病原性のももあります。しかしながら、いくつかのウイルスは、その型を変えることで、鶏から豚へ、また豚や鶏から人へと感染可能です。(最近のアジアでの事例のように)

質問：H5N1 型は北米にも持ち込まれますか？

渡り鳥、特に水鳥、シギ・チドリ類は、季節的な繁殖、羽の生え替わり、越冬期には、ベーリング海峡を渡り、アラスカとアジア間を往復します。アジアで、渡り鳥は感染した家禽および野鳥と接触を持つ可能性があります。渡り鳥は地域間の H5N1 型の運び屋であるとは実証されていません。もし、北米に H5N1 型が持ち込まれる場合は、感染した人の移動、あるいはウイルスを保有している媒体によるもの、あるいは不法に輸入された鳥あるいは鳥製品が原因である可能性がより高いと言えます。

質問：鳥の狩猟者は、H5N1 型にどの程度注意をするべきなのでしょう？

狩猟者は、今のところ H5N1 型に懸念を持ちすぎる必要はありませんが、狩猟衛生に関する基本的な予防知識が必要と思われます。野生の渡り鳥は、地域間での H5N1 型の蔓延媒体としては知られていません。また野鳥からの人への H5N1 型感染例は報告されていません。H5N1 型が、野鳥の個体群で存在し続けることができるのかといったことや、鳥が長距離、長期間の危険を引き起こしているのかといったことは判明していません。今後の調査・モニタリングにより、アラスカでのリスク評価がより正確になっていくと思われます。

詳しい情報

*アジアの鳥インフルエンザに関する情報

http://who.int/csr/disease/avian_influenza/en/

*アラスカの人の健康に関する情報

<http://epi.alaska.gov/id/influenza/fluinfor.htm>

*国立疾病管理予防センター (CDC)

<http://www.cdc.gov/flu/avian/index.htm>

*USGS 国立野生動物衛生センター

http://www.nwhc.usgs.gov/research/avian_influenza.html

*アラスカにおける野生生物の健康に関する最新情報、ADF&G

http://www.wildlife.alaska.gov/aawildlife/disease/disease_hm.cfm

*家禽と家畜に係る情報、米国農務省

<http://www.aphis.usda.gov/vs/biosecurity/hpai.html>